



# 一中だより

学校教育目標  
自主・練磨・敬愛

目指す学校像 「笑顔と活力あふれる学校」 ～一人一人の「よさ」を見つけ、伸ばす～

## 「緊張感」

校長 岡島 一恵

暑さがまだ続く中、その空をトンボが舞い、田んぼの稲穂がこうべを垂れ始めています。本日、二学期の始業式を迎え、川越第一中学校に生徒たちの元気な姿が戻ってきました。例年以上に暑さの厳しかった今年の夏ですが、一中の子ども達が、大きな事故なく、夏休みを過ごせたこと、そして、家庭・地域へ帰って、ひとまわり大きくなって学校へ戻ってこられたこと、保護者や地域の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍以降、始業式、修了式をオンラインにより実施して参りましたが、体育館にエアコンが設置されたことや対面で実施することの意義も踏まえ、一学期の終業式、二学期の始業式は体育館で対面で実施しました。式では、各学年の代表生徒が一学期を振り返って、また、二学期の抱負について、一人一人話をしました。緊張していた様子ではありましたが、とてもよいスピーチでした。一生懸命考え、時間をかけて文章を考え、練習してきたのでしょう。そういった過程があったからこそ、成功を思い緊張するのだと思います。そして、そんな仲間のスピーチを、全校生徒も、静かに、集中して、緊張感をもって聴くことができたと思います。



私は、ある程度の緊張感は成長につながる、緊張感の中、何かをやり遂げたことは、自信となり、達成感を味わうことができる、と思っています。二学期も合唱祭のような大きな学校行事だけでなく、こういった



緊張感を味わう経験ができる場面が学校生活には多くあると思います。川越第一中学校の生徒たちが行事や活動を通し、自分の「よさ」に気づき、更に成長していけるよう、今学期も教職員一同、協働の精神で全力で教育活動に臨んでまいります。

保護者・地域の皆様と共に、今まで以上に「双方向のコミュニケーション」を図り、「相互理解」のもと、「協働」して子ども達の育成に取り組んでいきたいと考えております。どうぞ、今後ともご理解・ご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

二学期始業式には、式の言葉として「平和」と「学び」について話をしました。以下に掲載させていただきます。

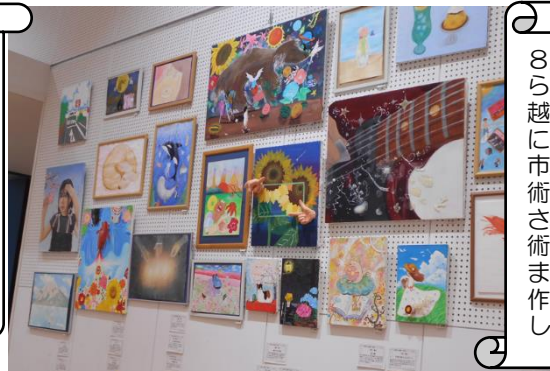
おはようございます。

40日間の長い夏休みが終わり、いよいよ今日から二学期が始まります。皆さんの元気な姿がここ川越第一中学校に揃い、学校にまた笑顔と活力があふれること、心から嬉しく思います。今年の夏は、例年以上に暑い夏休みとなりましたが、今年は、戦後80周年という日本にとって節目の年として、例年以上に特別なイベントが開催されたり、多くの報道があったように思います。広島に原爆が投下された8月6日に広島で毎年開催される平和記念式典には、今年も本校2年生からも代表として〇〇 〇〇さんが参加してくれました。昨今、戦争を体験した方の高齢化と減少により、その悲惨さ、恐ろしさや過ちの大きさを次世代に伝承する機会が失われていることが懸念されています。戦争を知らない私たち。今、私たちができることは何なのでしょう。まずは、自分の命を大切にすること。一学期の終業式にもお話ししましたが、皆さんの命は多くの人の支えと愛情によって育まれたかけがえのないものであり、自身の命も周りの人の命も大切にしなければいけません。そして、仲間を大切にすること。学校は、多様な仲間と出会う場です。共に学び、笑い、ぶつかり合いながらも理解しあい、尊重し合える人間関係を大切にすることこそが、平和の原点であるように思います。世界唯一の原爆被爆国である日本。日本人の一人として、戦争を経験し、戦争を憎み、平和を願い続けた戦争体験者の思いを風化させず、平和の輪を広げていくためには、まずは、私たちができることを、小さいことでもその思いや行動を大切にすること、それら一つ一つが集まって大きな力になるのだと思います。

さて、長い夏休み、皆さんはどのように過ごしたのでしょうか。部活動に打ち込んだ人、家族と旅行に出かけた人、普段できない体験活動に参加した人、家族とゆっくりした人、3年生はいよいよ本格的な受験勉強をスタートさせた人、様々な過ごし方をしたことと思います。どんな過ごし方にも、何かしらの「学び」があったのではないのでしょうか。私は、この夏は、趣味の一つである書道の11月の展覧会へ作品を出すことを決め、自分の等身大以上の大きさの画仙紙に中国の唐の時代の詩人白居易の漢詩60文字を、ほぼ毎日練習しました。また、教師として、今ある免許に加えて別の種類の免許を取得するための講習に丸6日間参加しました。新しい事への挑戦、新しい知識を学ぶことは、大変ではあったけれど、それは充実した楽しいものでした。「学びて 厭わず」。これは、元は論語の一節で、「舞姫」の作者として有名な、明治時代の小説家「森鷗外」も、大学で学生へ教えるを説く際、大切にした言葉とされています。「学び」を自分自身から積極的に取りに行くことは、誰かに強制されるものではなく、自ら「知りたい」「やってみたい」という気持ちが大きな原動力となり、そこから得た成果は、達成感や満足感、この上ない幸せな気持ちを生みます。そして、皆さんの周りには、たくさんの「学び」があるはず。皆さんは、日々、色々なことを学んでいます。授業での学習だけが「学び」ではありません。友達と意見を交わす中でも、新しい考え方を知ったり、失敗した経験も、次へどう活かしたらいいかを学ぶことができます。読書からも内容のみならず、その多様な表現や新しい世界観に触れることができる。これら、すべてが「学び」となりうるのです。1年間のうちで、一番長い学期となる二学期には、合唱祭のような大きな行事のみならず、日々の学校生活の中にたくさんの「学び」の機会があるはず。学びて厭わず、「学び」を自分で積極的に取りに行くことで、学ぶことの楽しさを皆さんにたくさん味わってほしいと思います。さあ、今学期も本校学校教育目標「自主・練磨・敬愛」の精神の下、川越第一中学校の生徒が、新たな「学び」の扉を開き、自身の可能性を広げていける二学期となることを期待し、式の言葉といたします。



去る8月1日、埼玉県吹奏楽コンクール西部地区大会Aの部に本校吹奏楽部が出場し、銀賞を受賞しました。



8月20日から24日に川越市立美術館において川越市立中学校美術部展が開催され、本校美術部も出展しました。どの作品も力作でした。